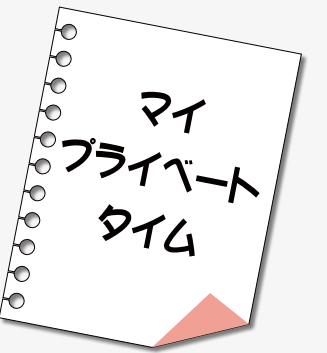


森の恵みと共に生きる



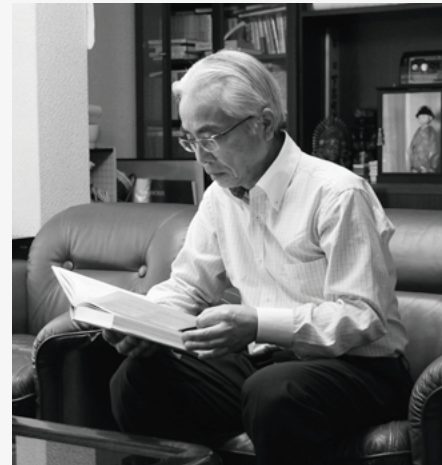
のむら まこと
下呂市長(岐阜県) 野村 誠
Makoto Nomura

座右の銘 「人間万事塞翁が馬」

これは中国の故事、人生における不幸は予測しがたいということ。

私は昭和24年、日本三名泉の一つである下呂温泉に程近いところで、農林家の長男として生まれました。幼少期は右足のすねの骨に熱がつく病氣(病名不詳)で体の弱い子で、そのため両親は小学校入学を1年遅らせようと真剣に考えていたようです。

弱いながらも順調(?)に卒業し、地元高校に進学しました。高校3年生になった5月に父が亡くなりました。父は太平洋戦争で沖繩に出征しており、戦後の昭和21年に復員しています。戦争中の過酷な状況の中、体を悪くしてしまっただけです。大学に進学しましたが、20歳の時、祖父が亡くなりました。3年のうちに一家の柱2人を失い、前途を悲観し



公務の合間に読書を楽しむ筆者

ました。しかし、おかげで20代前半から世間の付き合い、親戚の冠婚葬祭と結構幅広い経験ができました。

大学を出て家に帰るつもりでしたが、ある人の勧めもあり、静岡県林業の専門学校で1年間学びました。その後、地元の森林組合に就職し11年間お世話になりました。良き指導者に恵まれたこと、山で働く人たちが先輩同僚との交流は、現在の私がある原点と言えます。

仕事以外にも地元においては消防団や青年団、町内の人たちとの付き合いも、私が育つ大きな要因でした。

昭和58年、多くの皆さんから推され、下呂町議会議員に当選したのが、私の政治家の第一歩です。以後、平成16年の町村合併の直前まで町議会議員6期、その後下呂市議会議員を1期勤めました。

平成19年秋、次期市長選挙に出馬を要請され一旦決意しましたが、直後、膀胱ガンが発見され断念しました。手術、退院した翌春、再度多くの人たちの声に推され、出馬し今日に至っています。現在2期目。

私なりに山あり谷ありの今までの人生のように思います。人間万事塞翁が馬の気持ちで生きてきましたが、鈍感力も持っています。

前だろうか、「考えるパズル」の第1回に応募し当選して5000円もらってからやみつきになっています。長時間の列車や飛行機で移動するヒマつぶしには最適。答えを出すのに没頭するのでストレス解消にもなります。

国を守ってきた田舎

昭和30年代の半ばから、わが家でも植林を始めました。広葉樹林を伐採し、主に杉、松を植えました。戦後荒廃した森林の国土緑化という国策であり、薪炭の時代から化石燃料へのエネルギーの転換期でもありました。そして世は、池田内閣の所得倍増政策のもと高度成長へと進む時でした。「集団就職」や「金の卵」という流行語が生まれ、「あ、上野駅」という歌が流行りました。

植林には適地適木という原則がありましたが、何故、杉の一斉林、松の一斉林が多くなってしまったのか? 昭和30年代から昭和50年代後半あたりまで、木材価格が好調で当地方でも杉、松の伐採も盛んで再造林が行われました。また、広葉樹林を伐採しての拡大造林も大々的に行われました。国内住宅着工数も155万戸を超え、国産材の需要も多く、当地の松は「東濃松」としてブランドも確立していました。松の価格は平均で1㎡辺り7万円を超え、天然木で1㎡辺り100万



岐阜の宝物第1号「小坂の滝めぐり」三ツ滝の清流

趣味1 読書

小学生のころから家にある月刊誌や新聞を読むのが好きでした。内容を理解できる年ごろではなかったのですが、分からない文字は辞書で調べました。長じて大学に入ってから『週刊朝日』を今日まで購読しています。これは読書とは言えないかもしれませんが、時々世相を感じることができそうです。

今までの中でも一番印象に残っているのは、東郷青児の美人画が表紙を飾っていたことです。また、自己満足ですが、村山内閣が発足後、その内閣の感想を投稿したところ現在の「お便りクラブ」に掲載されたことです。

今まで一番読みごたえのあったのは、吉川英治の「三国志」です。中国の魏・呉・蜀の三国時代の歴史を扱ったものです。劉備・曹操・董卓らの覇権をめぐって

円を超えるものもありました。昭和60年代以降、木材価格は右肩下がりの状態が続いています。低価格の外材に押され、また国内住宅着工数も85万戸あたりまで下降しています。

今、日本の林業は危機に直面しています。林業家の山への意欲は減退し、山の手入れが遅れています。日本全体の森林の荒廃が進み、森林の果たす公益的機能がマヒしつつあります。

少子高齢化、過疎化に悩む中山間地域の人々たちが、田畑や森林を守ろうとしています。「私たちは自衛隊である。武器を持たないで国土を守っている自衛隊である」と私の知り合いの女性が言っていました。

戦後の高度成長を支えたのは田舎であり、清らかな空気と水を供給してきた田舎、国土を守ってきた田舎に、今こそ光を!



自分が育てた自慢の森林



森林の手入れに汗を流す筆者